

回 覧	部(支所)長	課 長	担 当

## ウンカ類の発生に注意！

お世話になっております。

今回のテーマは前年、後期多発生したウンカ類の防除について取り上げました。

本年度においてもウンカ類の発生には注意が必要ですのでしっかりと防除を行いましょう。

### ●長崎県のウンカ類の発生傾向について（長崎県病害虫防除所ホームページより引用）

長崎県ウンカ類の発生状況

- （1）8月上旬の巡回調査（86筆）の結果、株当たり虫数は0.06頭（平年 0.07頭）、発生圃場率は30.2%（平年 31.5%）と平年並で、短翅雌率は54.6%（過去7か年の平均 32.9%）と高かった。
- （2）8月2半旬の県予察圃場（普通期、無防除）調査の結果、株当たり虫数は0.51頭（参考：8月3半旬の平年 0.3頭）、寄生株率は35.0%（同 19.0%）で、短翅雌率は92.3%（同 50.8%）と高かった。
- （3）向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

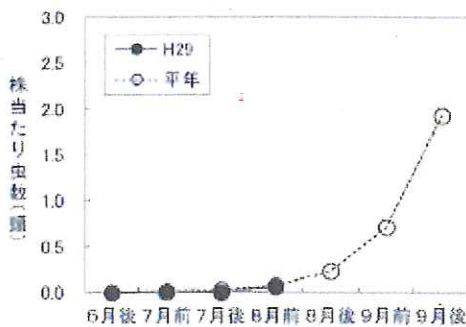


図1 トビイロウンカの株当たり虫数の推移

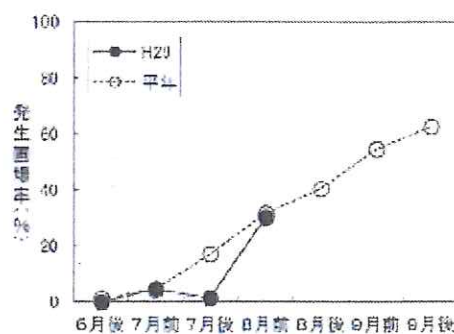


図2 トビイロウンカの発生圃場率の推移

### ●ウンカ類の発生について

西日本における主なウンカ類の被害時期（水稻）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	播種	移植		出穂	登熟	
			セジロウンカ	トビイロウンカ		

\*地域ごとに発生時期が異なるので注意が必要

私たちJAグループは“無登録農薬”は扱いません！

●ウンカ類の特徴について

～セジロウンカ、トビイロウンカ～

分布は温熱帯アジア全体に及び、日本ではセジロウンカは7～8月、トビイロウンカは8月～9月に大発生するため前者を夏ウンカ、後者を秋ウンカと呼ぶ。2種は毎年海外から飛来し、日本で増殖する。飛来は梅雨前線の移動と前線帯の南側の上空の下層ジェットによってもたらされる。

ポイント①

セジロウンカとトビイロウンカの主な違い

	飛来時期	被害	被害様式
セジロウンカ	6月～7月	7月～8月	産卵痕
トビイロウンカ	7月～8月	8月～9月	坪枯れ

ポイント②

ウンカ類の飛来時期について

●6～7月の成虫の飛来

6月下旬～7月下旬ごろ、日本の南海上に梅雨前線が停滞し、この前線を低気圧が東進し、梅雨前線の活動が活発になる。このとき下層ジェット気流が発生し、この気流に乗り、飛来するとされており、気流の強さ、方向とウンカの飛来量には相互関係があるとされている。この飛来は1回だけではなく、数回にわたって繰り返される。

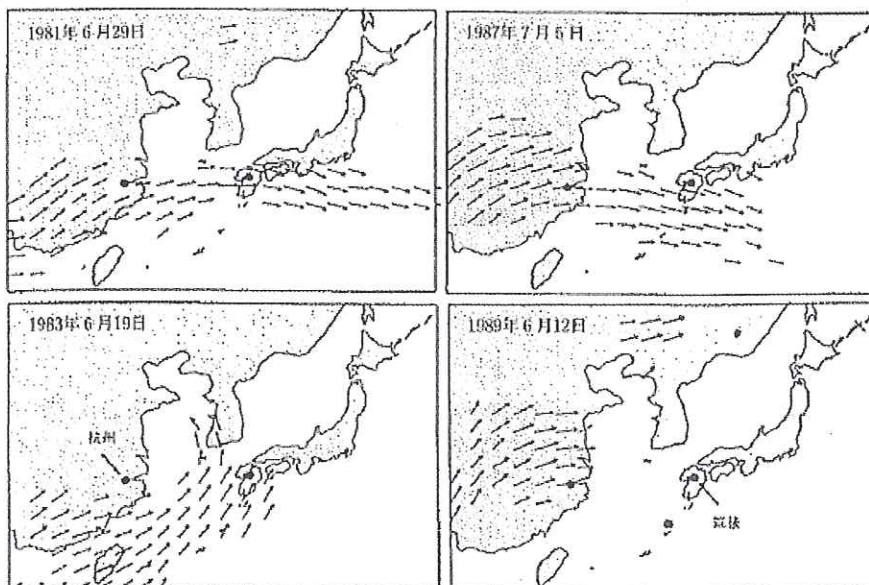
●第1世代の発生とイネの加害

この世代はセジロウンカの個体数が多い。密度が高くなるとウンカの分泌物にすす病が発生する。第1世代成虫まではセジロウンカが多く、トビイロウンカは少ない。短翅型成虫は移動せず、イネの株元で吸汁、産卵するが、長翅は飛翔し、移動するものが多い。

●第2世代以降の発生とイネの加害

第2世代の幼虫はトビイロウンカが多く、個体群密度の高い場合は坪枯れを起こす。第3世代幼虫もトビイロウンカが主体である。第3世代成虫には短翅型と長翅型がある。長翅型成虫は水田から移動する。短翅型成虫は水田に残り、イネでさらに1世代を経過し10月中旬～11月中旬に成虫が羽化するが、イネの収穫とともに移動分散する。

(図1) 代表的な下層ジェット気流の吹走パターン



代表的な下層ジェット気流の吹走パターン (寒川・渡邊, 1991)

上図＝杭州市と筑後市で同時期に誘殺・捕獲ピークが認められる場合の下層ジェット気流。  
左下＝筑後市のみで捕獲ピークが認められる場合の下層ジェット気流。



## ●ウンカ類の防除について

### ポイント①

#### 防除時期の判断

セジロウンカを対象とする場合は、飛来害虫の飛来日から2週間が目安となる。第1世代幼虫の密度が株当たり2～5頭以上であれば防除の必要がある。トビイロウンカを対象とする場合は、第1世代の幼虫ふ化揃い期を狙い、飛来25日後を目安とする。トビイロウンカの場合8月上中旬に短翅型成虫が100株当たり20頭以上であれば防除する必要がある。

### ポイント②

#### 発生予察での判断

ウンカ発生は飛来量に大きく依存する。従って、発生量の予察には各県に設置されている予察の誘致数に注意を払う必要がある。実際の圃場では以下のような調査を行い、発生量の把握に努める。

○成虫の飛来を認めたら、水田を巡回し、イネ株をたたいてウンカを田面に落とし、生息密度を調べる。

○第2世代成虫が少ない場合でもトビイロウンカの第3世代幼虫が急激に増殖することがあるので払い落とし方法で密度を調査する。

### ポイント③

#### 散布方法

ウンカ類は株元に寄生することが多いため株元まで薬剤が付着するようにしっかりかかるように散布を行う。

### ポイント④

#### 薬剤感受性の変動

セジロウンカ、トビイロウンカの2種は飛来原、飛来個体群により異なり、年次変動も大きいいため様相は複雑である。防除薬剤の選定に当たっては薬剤感受性の動向を注視する必要がある。

## ～主な防除薬剤について～

### ○有機リン系

マラソン剤、スミチオン剤、エルサン剤

### ○カーバメート系

バッサ剤

### ○その他

アプロード剤、トレボン剤、Mrジョーカー剤、スタークル剤

今年のトビイロウンカの発生予報は現在並、予想として多くなる予想です。今後の気象条件によっては増殖率が高まる可能性があるため、定期的に圃場を観察するなどして、発生に注意しましょう。

\* 9月号に記載されている内容はJA全農長崎のホームページに掲載されています。

JA全農長崎ホームページURL : <http://www.ns.zennoh.or.jp>

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稲	いもち病（穂いもち）	並	並
	紋枯病	並	並
	縞葉枯病	やや少	やや少
	トビイロウンカ（防除情報第10号継続）	並	やや多
	コブノメイガ	少	少
	穂吸汁性カメムシ類（防除情報第11号）	並	並
大豆	ハスモンヨトウ	やや少	並
いちご（育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（ <i>Glomerella cingulata</i> ） （防除情報第9号継続）	やや多	やや多
	輪斑病 ハダニ類（防除情報第12号）	並 やや多	並 やや多
アスパラガス	斑点性病害（掲斑病・斑点病） アザミウマ類	やや少 並	並 並
かんきつ	かいよう病	並	並
	黒点病	やや少	並
	ミカンハダニ	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	並	並
びわ	がんしゅ病	やや少	やや少
	ナシヒメシンクイ	やや多	やや多
果樹共通	カメムシ類（技術情報第1号）	やや多	やや多
茶	炭疽病	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	クワジロカイガラムシ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

JAグループ「安全防除運動」展開中

- ◎農産物の安全……今、消費者がもっとも願っている「食の安全」。それは私たち生産者の願いでもあります。きちんとした農薬を選び、正しく使って、日誌に記録を残す。これを続けることが、消費者に信頼される農産物づくりにつながります。
  - ・使うのは、もちろん登録農薬！
  - ・安全使用・事故防止へ、ラベル確認を習慣に！
  - ・使用後も、防除日誌で“安全証明”
- ◎環境の安全……土や水といった自然の恵みを利用して営まれている農業。皆さんが守り続けてきた大切な田畑を、次の世代に残すためにも、自然環境に十分配慮した農薬散布を心がけましょう。
  - ・必要量だけ希釈し、使い切る。空容器は適正処理を！
  - ・水稲除草剤の散布後は、圃場外への流出防止策を！
- ◎農家の安全……軽装備による散布中の事故や子供の誤飲事故が増えています。いくら周辺環境に配慮しても自身の健康を害しては何にもなりませんし、周辺住民との信頼関係を築くためにも農薬の保管管理にはいっそう注意したいものです。
  - ・暑さに負けるな。完全防備！
  - ・使用後は“薬の戸締り”万全に！



安全使用基準を守りましょう